

チーム TOKOWAKA

ものづくり生命文明機構



予告編映像

本編映像

- ◎ 宗像国際環境会議の活動と「常若」
- ◎ なぜ常若産業甲子園を開催したか
- ◎ チームTOKOWAKA

◎宗像国際環境会議の活動と「常若」

○ 日本の神仏の考え方

縁起 すべてはつながっている

常若 宮々と続く生きとし生けるもの、
天地を尊ぶ

縁起

縁起（梵: pratītya-samutpāda, プラティーティヤ・サムトパーダ）とは、他との関係が縁となって生起すること。

全ての現象は、独立自尊ではない。原因や条件が関係しあって成立する。原因や条件がなくなれば自ずと結果もなくなる。万物は因縁によって生じており、因と縁がそろって始めて結果が生じる。「因」は直接的な原因を表し、「縁」は間接的な全ての原因を意味する。

仏教の世界では「因縁」に基づいて「縁起」という言葉を用いる。良い行いをすれば良い結果が、悪い行いをすれば悪い結果が帰ってくる。因縁がこの世の真理ととらえる。

（出所） Wikipedia, All Right Info

常若

常若とは、一つひとつは生死を繰り返すが、全体ではいつもわかかわかしいこと。

若々しく生命力に満ち溢れた状態を尊び、いつもそうあるうとする願いを込めた言葉。

(出所) 広辞苑など

○ 常若産業：宗像国際環境会議

常若産業宣言（令和2年10月25日、第7回宗像
国際環境会議）

常若産業甲子園（令和3年10月9日、第8回宗
像国際環境会議）

次世代が抱負を語りおとなが応援する動画

常若産業甲子園 子供たちの未来の地球

2021年

VTR 10/9 (土) 12:15 放映

- 【テーマ】
- (1) 私たちができる地域の活性
 - (2) 高校生が考える吉野の未来
 - (3) 未来の地域環境を創造する

【対象】 17歳以下の子供たち



<https://www.munakata-eco.jp/>

宗像国際環境会議 第1回2014年～第9回2022年

第1回 (2014年)	海の道は未来へのみち
第2回 (2015年)	海と生きる～海と森との共生～
第3回 (2016年)	海からの警告 未来は過去から学ぶ
第4回 (2017年)	大いなる海 生命の循環 ～海の鎮守の森構想～
第5回 (2018年)	水と命の循環ー自然への感謝と畏怖
第6回 (2019年)	常若 TOKOWAKA
第7回 (2020年)	常若 自然の摂理と生命の循環
第8回 (2021年)	常若 自然の再生と循環型社会への実現に向けて
第9回 (2022年)	常若 生命の源泉

https://www.munakata-eco.jp/pages/3004479/page_201906200821

第7回宗像国際環境会議 常若産業宣言

日本のものづくりの心と技は、常若から始まっている。

宮大工の原点はいい刃物を持つこと。いい刃物と向き合い刃物の心を体得すれば刃物がいい仕事をする。身体感覚を磨き上げることが技をなす。木と向き合い木の本質を掴み取ることが寸法も設計図もない中で寸分違わぬ五重の塔を建てる土台となる。

機械化と自動化はものづくりの効率を高めるかもしれないが、担い手が物心一如の言葉を胸に刻み、三千年先の地球に思いをいたせば、より良いものづくり、大地と海原と空、そして森里川海に暮らす生きとし生けるものと共にするものづくりに至る。

私たちは、ものの寿命を超えて永遠のいのちに思いをいたし、世界のすべての国と価値を共にする。農林水産業、ものづくり、世間に奉仕するすべての産業において、常若の精神が輪となり、波動となって遍く地球に届くよう、できることを率先垂範する一員となる。特に、日本の産業に関心を寄せる諸国との交流と協働に努めるとともに、都市と限界集落とを問わず常若産業を実践する方々に敬意を表し行動を共にする。

令和2年10月25日

第7回宗像国際環境会議参加者一同

◎なぜ常若産業甲子園を開催したか

- 常若産業甲子園とは...

宗像国際環境会議（2014年～）は、「海の鎮守の森」構想を掲げ、日本の環境の未来について毎年話し合う場所。

全国の小学生と高校生が将来の抱負を語り、おとながエールを送る40分のドキュメンタリー映画を作成。

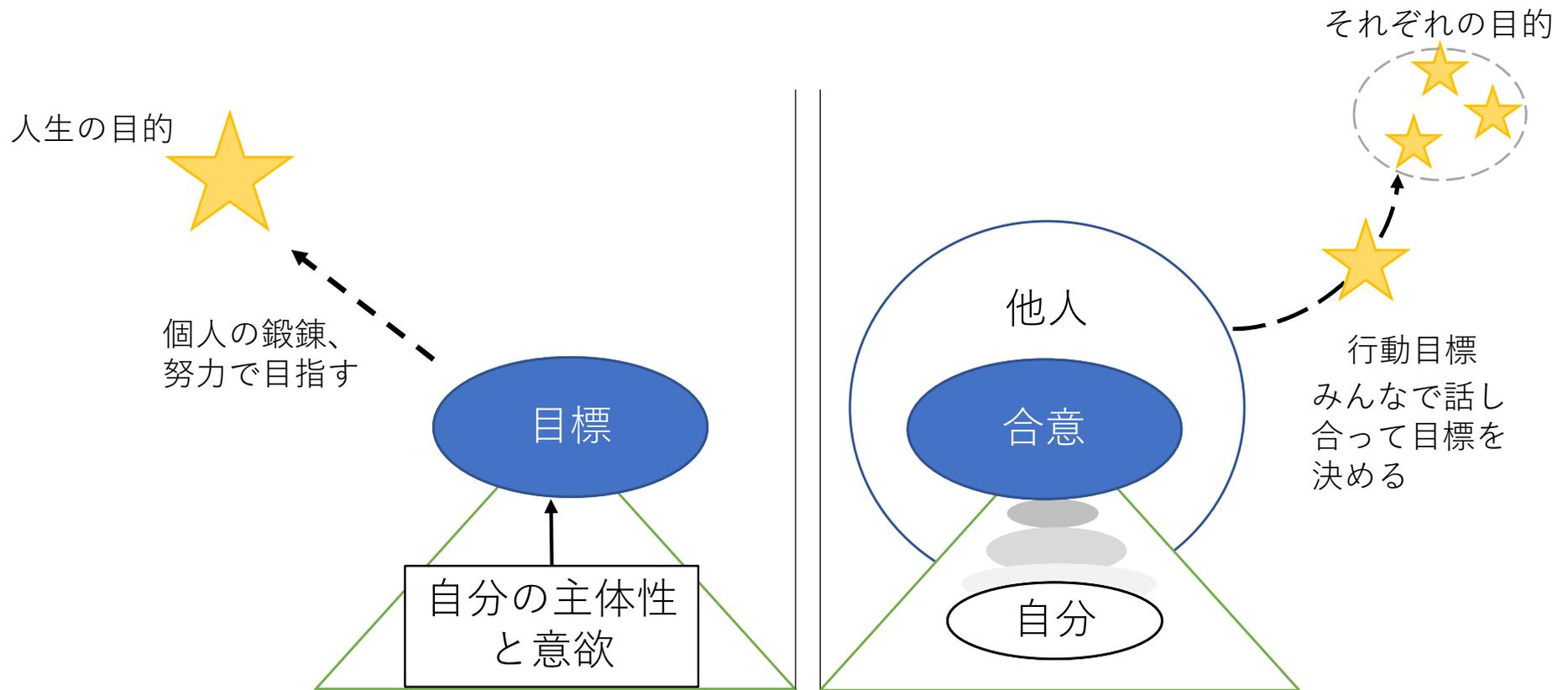
- 開催の背景

- ふるさとを守り次世代に繋げているおとなと、Z世代の絆を確かなものにしたい。
- 社会課題解決を一生の仕事に選ぶZ世代を応援したい。

◎ 子 一 厶 TOKOWAKA

- 常若な希望の星とは
 - 世の中の役に立つ喜び
 - 困っている人のために働く
 - 社会課題を我がこととして解決
 - 農林水産業は一生をかける仕事
「森と川と里と海」を常若にする
 - エネルギーを自給する
- 常若をライフワークにするZ世代と、ライフワークにしてきたおとなが発表して交流する場をオンラインで実施する。
- 世代をこえて「常若」を受け継ぐ「武者修行」を応援する。

希望の星（人生の目的）と集団の行動目標



- 個人が希望の星（人生の目的）を目指すときは、学校で学ぶ知識・技能をもとにして主体的に学びを深めたり、鍛錬を積み重ねたりしながら思考力、判断力を高める。
- 自分と他人が話し合って作った集団の行動目標を立てる。話し合いの過程で表現力を発揮し、多様性（＝他人の主体性と意欲）を受け入れる。それぞれが持つ長所や知識、技能を生かして協働する。

ことばの説明

- 人生の目的 と 目標

何のために生きるのか、そのために何をを目指すのか

- なりたい自分 と ありたい自分

遠くに輝く希望の星、そうありたいけれどそうなれるとは限らない状況。ありたい自分であるために何になるのか

- 仕事 と 稼ぎ

お金がもらえなくてもやることと、お金をもらうためにやること

- 生きる喜びを感じるのはどんな時？

誰かの役に立つことをやる、やりたいことをやる、好きなことをしたり、好きなことに触れている、誰かに期待されている

- 悲しい時には何をしている？

誰かに話を聞いてもらう

- 怒っている時には何をしている？

布団をたたく

2030年に向けた変化の方向と農山漁村の四つのインフラ

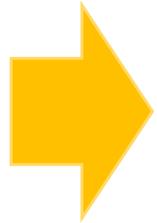
デジタル社会がもたらす変化

目指すは「他己社会」
(他人と自分は等価値の社会)



働く場がない

行政依存



フリーランス
地方移住

リモートな
学びと稼ぎ

我がこと
意識

世界とつながって、ともに夢、希望を実現する

長寿、福祉、学習など、税金でカバーしきれない領域を住民自治の精神で解決しようとする

4つのインフラ

高等学校

コワーキング
スペース

協同組織金融

オムニチャネル